

今月も川勝知事に一言

御嶽山の噴火は心肺停止・死亡と確認された登山者が計50人超と噴火災害としては平成3年の長崎県の雲仙・普賢岳以来の惨事となった。紅葉シーズンでにぎわう「日本第2の高峰」を襲った惨劇……突然の天変地異に驚く一方で富士山や桜島は大丈夫なのかと心配になる。

小泉純一郎元首相は東京都内で記者団に対して「御嶽山の噴火は専門家でも想定外とっている。想定外とはいつでも起こりうることだ」と指摘した上で「地震、津波、噴火も各地で起こる。日本は原発をやっちゃいけない国だ」と訴えたそうだが、私も賛同したい。ちょうど今、私は原子力発電所の設計などを手掛けた専門家集団がまとめた「浜岡原子力発電所の技術的および社会的検討」をベースにした概要版を作成中なので、その思いはいつそう強い。

さて、県議会が開会中である。今回もまた川勝知事の発言について触れなければならない。静岡市への批判はひとまずおいて、川勝知事の発言には論理のすり替えが目立つ。例えば空港新駅。空港新駅は何のためにつくろうとしているのか？発端は静岡空港の利活用向上のはずだった。それがいつのまにか防災空港駅となっている。

JR沼津駅高架事業もそうだ。6年前、知事は沼津市が準備していた移転地の強制収用を「事業を進めるが、不幸を生んではいけない」と中止。「そもそも貨物駅は不要では」とも提案し、賛否双方の住民を驚かせた。しかし、それも今回の所信表明で、JR沼津駅高架事業を推進すること、そのためには現貨物駅を沼津市原地区に移転させ、新たな貨物駅を整備する方針を正式に表明した。知事は「沼津に最新式の荷役作業の出来るターミナルが整備されれば、国の有事に際し、重要な役割を果たすと確信した」と述べた。国の有事とは第一に防災だ。知事の考えでいけば防災貨物駅となるのだろう。

また、全国学力テスト結果公開に関しては、制度の解釈及び運用について持論を滔々と説明するだけで、そこには子ども達への思いは微塵も感じられなかった。そのうち学力テストも防災学力テストとなるかもしれない。

こうした一連の知事の発言に対して議会の反応は鈍い。何を言っても無駄と諦めているのか、はたまた怖いのか……。私は今までもこれからも知事に対しては是々非々でのぞんでいきたいと思っている。

静岡県議会議員

天の一